

## 再び三田の山へ

第8期 OB 石田 陽一朗

タイトルの通り、2017年4月から再び大学で勉強させて頂く運びとなりました。慶應義塾大学大学院商学研究科にて、岡本大輔先生のご指導のもと、「関係性に着目した企業評価の再検討」(仮)というテーマで研究を進める予定です。

大学院入学を決めた理由については諸々ありますが、結局は

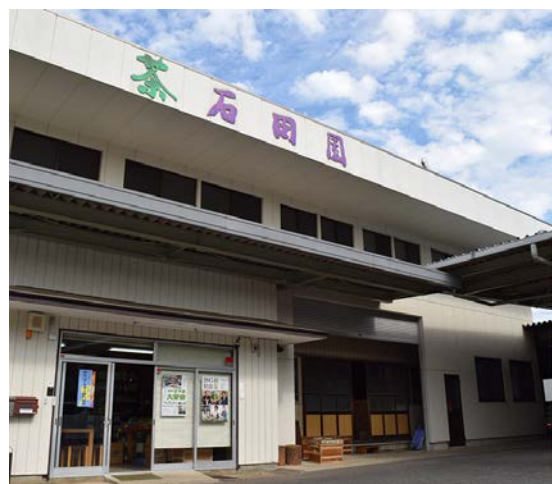
「もう一度、学問研究をしっかりとやりたかった」、これが一番大きいと思います。

2016年7月に4年ほど勤めたイオンリテール株式会社を退社しました。実家は埼玉県の狭山市で製茶問屋の自営業をしており、経験と心構えの修行のつもりで企業勤めを経験しました。売場業務を通じた具体的なスキルはもちろんですが、仕事に対する姿勢など、多くを勉強させて頂きました。しかし、本社勤めになって半年が経過する頃、自分の中で納得できる将来像をそれ以上描くことが出来ず、悩み考え出した答えが「大学でもう一度学ぶ」ことでした。齢にして、26歳。同期ではそれなりの社会的地位を築いている方もいる中、不安は大きかったです。将来的な自分の可能性を考えた上では最高の選択をすることができたと思っていますし、正直「こうする以外にはなかった」という感じです。

現在は、週2で実家での仕事をしながら、岡本先生のご厚意で大学で勉強させて頂いております。4月から大学院での勉強が本格化しますが、研究の傍ら、実務として仕事に携われる環境は大変有り難いと思っています。

2017年は、学問研究、実家の製茶問屋での仕事、音楽(ヴィオラによるオーケストラや弦楽四重奏団での活動)の3本柱で突っ走ります。

せっかくなので既述した研究テーマを少し詳述致しますと、私が敬愛している「コンシャス・キャピタリズム(Conscious Capitalism)」という企業経営の考え方では、あらゆるステークホルダーに対して尊敬・慈愛の念を持ち長期的な目線で情緒的に行動します。そういった企業に特徴づけられる「コンシャス」な行動が企業のパフォーマンスにどのような影響を及ぼしているのかが関心です。「関係性」や「信頼」など多くの類似概念を検証しながら進めることになるかと展望しておりますが、どうなるかは分かりません。



製茶問屋『石田園』店舗外観

最後になりますが、大学院の受験に際し、お忙しいなか、ご相談およびアドバイスを下さった小野先生、石井隆太君（第10期）に、この場を借り改めて心より感謝申し上げます。また、合宿やゼミなど多くの機会でお声かけ下さる第13・14期の現役生様、いつも本当に有り難うございます。

小野晃典先生、本年も大変お世話になると存じますが、何卒よろしくお願い申し上げます。



2016年10月22日慶應義塾大学室内楽サークルのOB・OG演奏会にて（著者は左から2番目）



2016年夏合宿の女装コンテストにて（著者は左から2番目）